

40億年前から存在した希少な糖が世界を救うかもしれません。

希少糖は天然のたんぱく質からつくられる、あまくておいしく、カラダにやさしい糖です。

11月10日はいい糖の日 希少糖の日

一般社団法人日本希少糖協会より、11月10日を「希少糖の日」として登録されました。



一般社団法人希少糖普及協会

▲昨年制定された「希少糖の日」の啓発ポスター



伊丹市バスにも希少糖含有シロップの広告。阪急伊丹駅前

希少糖で成人病予防

松谷化学工業が世界に発信

甘いのに血糖値上昇が抑えられるなど驚きの効果を持つ希少糖。国内唯一の希少糖含有シロップのメーカーである松谷化学工業(北伊丹5。松谷晴世社長)は、昨年来、「希少糖の日」(11月10日)にちなんだ啓発活動に力を入れている。今年も、無料野外音楽フェスティバル「TAMI GREENJAM」に初めて協賛するなど、メニューを増やして啓発にあたる予定だ。

松谷化学工業が量産化 (2003)、松谷英次郎会長がテレビで希少糖の存在を知ると、すぐに何森教授に連絡。これがきっかけで希少糖研究の産学官連携プロジェクトにつながった。同社は、でん粉事業から始まった会社だが、戦後の食糧不足の中でブドウ糖事業を立ち上げ、その後撤退

「希少糖の日」制定し啓発 一般社団法人希少糖普及協会(高松市)は、肥満や糖尿病などの生活習慣病対策は人類的な課題だとして世界中に希少糖を普及させることを目指しており、昨年には語呂合わせで「いい糖」になる11月10日を「希少糖の日」に制定した。同協会の一員である松谷化学工業は、普及・啓発活動の中心的な役割を担っている。まずは地元からと、昨年11月10日から12日にかけてイオンモール伊丹で記念イベントを行い、来場者に「レアシユガースウィート」試供品などを配布。市内の大手前大学と連携した「希少糖スイーツ公開講座」も開講した。

郷土研究 伊丹公論

復刊 第21号 通巻40号 年4回発行 (次号は11月30日予定)

発行所 伊丹市立図書館(ことば蔵) 〒664-0895 伊丹市宮ノ前3-7-14 編集 伊丹公論編集委員会 編集 伊丹市立図書館(ことば蔵) 〒664-0895 伊丹市宮ノ前3-7-14 電話 072-784-8170

また7月、シカゴで開催された米国最大級の食品素材展「IFT18」にも希少糖のブースを出展。希少糖に期待される効果についてのプレゼンテーションを行い、世界に向けて情報を発信した。今年はこの企画に加え、新たな試みとして8月、JR伊丹駅改札横の観光物産ギャラリーに設置されたラックに「希少糖の日」啓発カードを掲出、それをカウンターに持参した人に希少糖入りハイボール缶をプレゼントした。



伊丹市の銘産品「レアシユガースウィート」を使用した希少糖入りハイボール

広がる希少糖使用商品 希少糖入りのうどん汁などレアシユガースウィートを使った食品が香川県を中心に次々と誕生しているが、伊丹でも使用例が増えている。福住(梅ノ木)の「抹茶まんじゅう」「ほうじ茶まんじゅう」、菓匠「寶樹庵」(安堂寺町)の地酒ケーキ

「酒蔵通り」は、希少糖を使用した人気菓子だ(これらの商品は観光物産ギャラリーでも販売)。また、今年4月には、希少糖入り「老松丹水あまざけ」や同じく希少糖入りの「老松丹水マイヤーレモン酒」が伊丹老松酒造(中央3)から発売された。レアシユガースウィートの課題は価格だが、世界中で肥満や高血糖に悩む人が増えるなか、普及して生産数が増えるに従って徐々に低下していくことだろう。

来年、松谷化学工業は創業100周年を迎える。希少糖への需要の高まりとともに新たな飛躍が期待されている。

絵本「スイミー」の原画が見られる

みんなのレオ・レオーニ展 その人生と創作に迫る

レオ・レオーニの展覧会が伊丹市立美術館で開催中だ。絵本の原画を中心に油彩、彫刻、グラフィックデザインなどで彼の人生と創作に迫る。レオーニは1910年、オランダの裕福なユダヤ人家庭に生まれた。29歳のとき、移住先のイタリアでファシスト政権が誕生したため、アメリカに亡命。広告代理店や新聞社でグラフィックデザイナーとして活躍後、49歳のとき、孫のために作っ



「フレデリック」1967年 Frederick © 1967, renewed 1995 by Leo Lionni/Pantheon Works by Leo Lionni, On Loan By The Lionni Family

た絵本「あおくんときいろちゃん」で絵本作家としてデビューした。絵本作家としては遅咲きだが、アメリカで最も権威ある児童文学賞を受賞するなど成功を収めた。彼の絵本は「スイミー」「フレデリック」「アレクサンダーとせんまいねずみ」などがよく知られ、特に「スイミー」は日本でも小学校の国語の教科書に掲載され親しまれている。「スイミー」では、一匹だけ真っ黒な魚の主人公が大きな魚に飲み込まれようとする仲間を助けるアイデアを出す。助け合いの大切さだけではなく、終わらないメッセージが隠されているようにだ。レオーニは晩年、イタリアに戻り、想像上の植物図鑑「平行植物」などの作品を手がけ、自然が美しいトスカナで没している。懐かしさとともに、新たな彼を発見できる絶好の機会だ。9月24日まで。入館料は一般800円、高校・大学生450円、小中学生150円。問い合わせは同館 ☎072-772-7447

(丸) 晴子



「みんなの寺子屋」初開催

子ども含む15組の先生が授業

ことは蔵6周年記念の市民企画イベント「みんなの寺子屋」が今年7

月1日、開催された。

1時間目から5時間目まで、三つ

の授業を3教室で並行して行い、合計15講座を開催するという、ことは



折り紙を教える子ども先生(上写真)と生徒たち



カードを使った英語の授業を受ける子どもたち



蔵では過去最大級のイベント。子ども先生による授業が5コマ、大人先生による授業が10コマ行われた。特に子ども先生の授業は人気があり、10時10分から始まった小学3年生の女子児童による「ちよつと楽しい折り紙のおり方」では、朝早い時間にも関わらず、定員の20人を超える子ども38人、保護者12人の参加があり、早々に満員御礼となった。先生のおどけなさや、とまどう姿に参加者からは時々笑顔もこぼれていた。

また女子高生が先生となった芝居の授業「E-tude」(台本のない芝居)では、大人も参加できたのに集まったのは小学生くらいの子どもばかり12人。最初は自己紹介から始まったが、話すのが苦手な子どもも、周りの子たちに後押しされて徐々に話せるようになった。子どもの仲間意識はすごいと感じた。また即興劇では、台本がないためグループに分かれて短時間で話し合い、あるグ

郷土史 こぼれ話

21

鬼貫の町を訪れた高浜虚子と句碑



高浜虚子の句碑 伊丹市宮ノ前1丁目

秋風の伊丹古町今通る

宮ノ前の伊丹アイフォニックホール北側に高浜虚子の句碑がある。昭和26年(1951)。松山での子規50年祭の帰路、伊丹の森信坤(もりののぶ)氏(敬二。当時東洋リノリウム株式会社社長)に招かれた。墨染寺の鬼貫親子墓を詣でる意味もあった。墓を見つめ、しばし立ち尽くす写真がある。

伊丹は満天下に轟く酒の町である。豊饒な文化は俳聖と呼ばれた上島

鬼貫を生み、また京都の公家、近衛家の領地、井原西鶴の描く「津の国の隠れ里」として、古町の余情を残していた。虚子は阪急伊丹駅

近くの料亭「あけび」で一泊し、鬼貫親子墓にも詣で句会を開く。冒頭の一句はこのときに生まれ、句碑が建立されたという。ところが誰が、いつ、どこに建てたか、記録がまったくない。そして時が経ち、建立場所を離れ市内某所にひっそりと眠っていた。それを見つけて掘り起こした市の職員がいた。建築が専門で歴史や文化に関心を持ち、気骨があった。その人が動き、今の場所に蘇った。感動した。30年ほど前のことである。建立者と思われるのは先述の森信坤者。財界の旗頭で虚子高弟の一人であった。東リ70年史によると、俳人社長と呼ばれ、古希の時に句集「春山(昭和27年)を出した。虚子は、「世の中の酸いも甘いも噛み分けた所謂底の抜けた人」と評した。坤者の当日句に「親と子の一つ墓なり詣でけり」がある。だが、本当にこの

人が建てたのかは確認がない。ご存知の方はお教え願いたい。ともあれ虚子にとって、鬼貫の町をそぞろ歩く喜びは、この上もないものがあつたらう。宿泊中の句に「花筒をそよりと出たる秋蚊かな」がある。さすが虚子。鬼貫の「そよりと」もせいで秋立つことかしの「挨拶句であろう。途中から伊丹在住の正岡忠三郎(正岡子規家を継ぐ)夫妻も駆けつけた。虚子は、子規に兄事したことでも知られる。座はさらににぎわった。思ひ出となるべき秋の一夜かな酒庫の秋の日はなつかしき秋の夜のつひひというも十余人すべて当日の虚子句である。(郷土史研究者 森本 啓一)

蔵出しニュース

伊丹でみつける・さぐる・かんがえる夏 第1回 図書館を使った調べる学習コンクール

この夏、ことは蔵は、「第一回伊丹でみつける・さぐる・かんがえる 図書館を使った調べる学習コンクール」を開催します。「図書館を使った調べる学習」とは、自分の疑問を解決するため、図書館を使って必要な情報を採って分析し、自分のことばで表現する学習です。この学習では、主体的に学ぶ意欲を掘り起こし、社会で必要とされる「生きる力」を身につけることができます。図書館はその力を育む支援の一つとして、関連する講座を市内の各施設と協力して開催し、学習の成果をまとめた作品を募集、表彰

この夏、ことは蔵は、「第一回伊丹でみつける・さぐる・かんがえる 図書館を使った調べる学習コンクール」を開催します。「図書館を使った調べる学習」とは、自分の疑問を解決するため、図書館を使って必要な情報を採って分析し、自分のことばで表現する学習です。この学習では、主体的に学ぶ意欲を掘り起こし、社会で必要とされる「生きる力」を身につけることができます。図書館はその力を育む支援の一つとして、関連する講座を市内の各施設と協力して開催し、学習の成果をまとめた作品を募集、表彰

テーマは「今までで一番半端ない出来事」

電子申請はこちら

紙に絵の描かれた紙片を貼って双六を完成させるものだが、お酒のクイズに正解すると缶バッジをもらえる趣向もあって、はしゃぎ声の絶えない授業だった。全体を通して、子どもたちがたくさん来てくれて、図書館になじんでくれたのではないかと感じた。しかし課題も残った。大人先生の授業の中には、生徒が少ない授業があった。また子ども先生についても、大勢の人の前で授業をするときの心の負担に配慮しなければならぬ。これらの課題を乗り越え来年もぜひ開催したいと思う。(細尾 哲也、原口 一哉)

マンホールカードが人気

白鳥とカモをデザイン この1年で2378枚配布

伊丹市



マンホールの蓋には、自治体ごとに特色ある凝ったデザインが施されており、日本独自の文化となっている。それを全国統一のフォーマットで作成したマンホールカードが人気だ。

マンホールカードは、下水道のイメージアップなどを目的に国や自治体、企業などで作る「下水道広報プラットフォーム」が考案。カードの大きさ、デザインが統一され、全国九つのブロックごとにベースカラーが決められている。

2年前から無料配布がスタートし現在、全国364自治体から48種類のカードが発行されている。カードは窓口で一人一枚の手渡し配布だ。

伊丹市のカードは昆陽池の白鳥や市の鳥のカモがデザインされており、ベースカラーは近畿ブロック共通のオレンジ色だ。昨年8月1日から配布を開始、今年7月末までの1年間に2千378枚配布した。窓口へ来た人の

下水道局職員=同局1階管理課で手渡す市上下水道局職員=同局1階管理課

7割が市外在住者で、遠くは北海道や鹿児島県から来たファンもいたそうだ。伊丹市のマンホールの蓋は、昭和62年(1987)、当時の下水道課職員が昆陽池で撮影した白鳥とカモの写真を蓋の製造会社に持ち込んでデザインされた。豊かな水を印象的に描くことで快適な暮らしや循環型社会を支える下水道の役割を表現したそうだ。

(龍田起代子)

現代人物風景

新進気鋭のマジシャン。地元・伊丹を中心に活動し、世界での活躍を夢見ている。

生まれたのは隣の川西市。しか絵本が大好きな少年だったが、小学3年生のとき、箱の中に破れたトラ

ンプを入れ、呪文を唱えたら元通りに復活する手品道具を親に買ってもらったのが転機に。サッカーのチームメイトや友だちの前でマジックを披露すると結構受

を笑顔に

マジックでみんな



写真協力=西田写真館

マジシャン そう た さん(23)

卒業後、新潟県を中心に活躍するマジシャンに師事し、自宅に居候させてもらい、3カ月間修行した。初舞台は平成25年夏、祖父が利用していた川西市内のデイサービスセンターでのマジックショー。ここで喜んでもらえたのをきっかけに、少

く、徐々にその世界に魅了されていく。高校生のとき、家族とともに伊丹に転居。3年時にイギリスに短期の語学留学をした際、言葉の壁を得意のマジックで乗り越え、マジックの威力を再確認。また、ホームステイ先のレストランでマジックを披露したところ、観客から初めてチップをもらい、「マジックがお金になる」ことに感激。高校卒業後、新潟県を中心に活躍するマジシャンに師事し、自宅に居候させてもらい、3カ月間修行した。初舞台は平成25年夏、祖父が利用していた川西市内のデイサービスセンターでのマジックショー。ここで喜んでもらえたのをきっかけに、少



マジシャンそうたさんのホームページはこちら

老舗探訪

レストラン一番

伊丹市北本町3-50 伊丹市公設市場内
☎072-778-0145



伊丹市公設市場内に昭和51年(1976)に創業した定食屋さん。市場関係者だけでなく、広い地域からのお得意さんでにぎわっている。市場の新鮮な食材を使った多彩なメニューが用意されているのが特徴。栄養バランスを重視した日替和風定食(税込500円)や刺身定食(税込800円)が人気だ。ライスのおかわりが自由なのはうれしい。

2代目店主の小林優国さん(46)は、「たけのこと春野菜の天ぷら」といった季節メニューや、沖縄のタコライスのようなご当地メニューも導入した。その結果、今まであまり利用のなかった女性や子どもも来店が増えた。客の中心は、今も近くの工場の作業員や営業マンだが、近隣市だけでなく神戸市など遠方のまちから足を運ぶ人も少なくない。仕事で商品の売り込みに来た営業マンも、気づけば店のリピーターになっていたという。

先代の時は量を重視したメニューが中心だったが、市場外からのお客さんが多かったことから、新たな客層を取り入れるべく、メニューを改革。市場内で毎日仕入れる新鮮な魚介類や肉に加えて、野菜を多く使った、質重視のメニューをそろえた。また、「たけのこと春野菜の天ぷら」

小林さんは「お客さんが毎日来ても飽きないように、さらにメニューを工夫していきたい」と話している。一度店を訪れば、きっとあなたもリピーターになることだろう。

世界の頂点を極めた

KONISHIビール

KONISHIビールは小西酒造株式会社のクラフトビール(地ビール)。代表格は「スノーブロンシユ」写真。香り、味、泡にこだわり、11年、イギリスのThe Brewing Industry International Awards 2011でチャンピオンの栄誉に輝いた。「スノーブロンシユ」は英語とフランス語を混ぜた造語で、訳すと「雪白」。出品する前、その会心の出来に、いったん決めた「ブロンシユ」の名を、小西酒造の清酒の銘柄「白雪」を冠した名に変えた。

発酵の過程で醗全体が上にいる上面発酵タイプのホワイトビール。酵母は伊丹市の姉妹都市、ハッセルルト市のあるベルギーから輸入している。日本で一般的なピルスナー(下面発酵)タイプに比べ、生きている酵母自体の持つ香りの良さを生む。グラスに注ぐと白く濁り、酵母やオレンジの香りとはよい酸味が楽しめる。

KONISHIビールは、白雪ブルワリービレッジ長寿蔵(中央3)で味わえる。また購入は向かいの長寿蔵ショップや長寿蔵オンラインショップでできる。(原口一哉)



白雪ブルワリービレッジ長寿蔵
☎072-773-1111
<http://chojiguracom/>

